

## 編集後記

今年度もつつがなく「環境制御」第31号を発刊できました。これも皆様の御協力の賜と感謝しております。また、編集については崎田真一先生の御尽力によるところが大きく、大変感謝しております。本誌は、昨年度の環境管理センター公開講演会で講師をお願いした宇根豊先生の「市民にとって自然環境とは何か：百姓仕事と田んぼのめぐみ」と題した総説をはじめ、総合論文1編、論文2編、研究ノート1編および環境管理センターの活動報告を掲載しています。

環境の世紀と言われる21世紀がスタートして10年が経過しようとしています。最近では政治の世界でも環境に関する発言が増えていることが注目されます。「Yes, we can」のスローガンで大統領となったバラク・オバマ合衆国大統領の就任演説では、環境に関するスローガンが示され話題となりました。その後、2009年1月27日には「温室効果ガスの排出量削減と自動車の燃費向上に関する政策の見直し」に関する演説が行われ、合衆国が環境大国に向けて大きく舵を切ることが示されました。日本では9月に民主党主体の新内閣が発足し、鳩山首相は9月22日の国連気候変動サミットの開会式で「90年比で25%削減」という2020年までの日本の温室効果ガスの削減目標を国際的に公約し、注目を集めました。これら一連の動きは、今年が環境に関するターニングポイントになることを示唆していると言えます。

環境問題に関して、岡山大学では4月22日に「地球温暖化対策に関する実施基本計画」が役員会で承認され、これを受けて7月22日に「地球温暖化対策のための行動計画」が策定されました。これらの方針を基に各部局で温暖化対策の計画が立てられ、実施されているのは御存知の通りです。また、ここ数年問題となっている化学物質の管理については、加瀬野悟先生による「センターから」でも触れられているように、今年度より化学物質管理について新しい「岡山大学化学物質管理規程」のもと、管理責任者や取扱・保管責任者が選任され、使用者への管理・指導の体制が整いつつあります。実際に実験などの作業をしている現場の安全は、前述のオバマ大統領の言葉を借りれば、個々の教員・職員の皆様の”Responsibility”にかかっています。この教育・研究環境の安全を確保するために、環境管理センターの職員一同努めて参ります。御協力の程、宜しく御願ひ申し上げます。

最後に「環境制御」では、自然科学・社会科学を含む環境に関する幅広い内容の解説、学術論文、および技術報告を掲載致します。是非、積極的に御投稿頂けますよう、お願い申し上げます。

環境管理センター 亀島 欣一